

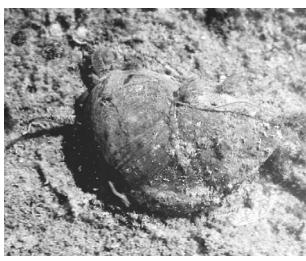


アブラゼミの羽化を観察
七月下旬、七塚原高原は子どもたちのキャンプでにぎわっています。今年は特に多くの小学生が、長期自然体験キャンプにやっています。そのためには資質を磨いてくださいとされています。そのためには奇いいっぱい、出番がいっぱい

声を聞くといっぷんに涼風か
木々のお陰です。オオシマザクラさん、コシアブラさん、ガナカナカナ！』といふ
田耕作地周辺では今でも普通にみることができます。マルタニシは一九九〇年代から急速に数を減らし、今では絶滅危惧種の一つになっています。その理由は、農薬の影響

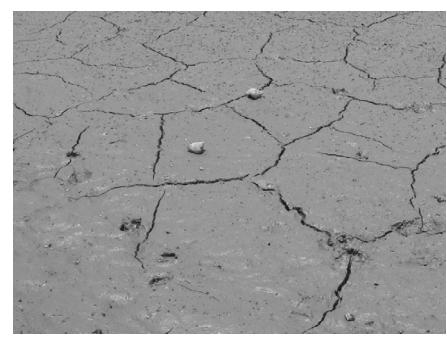
意外な野外のガイダンス ~田んぼの生きもの編~

(15) タニシ



田んぼを這うヒメタニシ

『侵略的外来種』にも選定



の水田ではヤンボタニシと呼ばれる巻貝を見ることがあります。名前にはタニシとあります。正しくはスクミリシガイと言い、一九八一年に台湾から食用として日本に持ち込まれた外来種です。

問題になっています。そこでようやく口が傾く頃から、ガナカナカナ！』といふ

な問題となつており、世界の侵略的外来種ワースト100にも選定されています。一方で、マルタニシ、オオタニシも、十九世紀末に日本人が北米に持ち込んだものが繁殖し

ています。

（環境保全課 原 竜也）

活動研究センター
(NPO法人七塚原自然体験
理事長 西村清巳)

水田や用水路、ため池などでみられるタニシ。タニシは巻貝の仲間で、県内ではマルタニシ、オオタニシ、ヒメタニシの三種類が生息します。オオタニシ、ヒメタニシは水

や乾田化に伴う冬季の極度の乾燥とされています。これらタニシの仲間は体内で卵を孵化させ、仔貝を産む卵胎生という生態を持ちます。また、異型精子といって、形の異なる二バターンの精子を持ち、片方の精子だけが受精能力を備えるといった特徴があります。ちなみに、漫画家・手塚治虫氏の医学博士の学位論文は、タニシの異型精子に関する研究だったようです。

これら三種以外に、県東部

に廃棄され各地に拡がりました。彼らは稻を食害するため、アジア各国の稻作地帯で大き

に移動して集まり、産卵が始まります。

一年中水があるところを恒久的水域、ふだんは陸地で増水後などに一時に水没するところを一時的水域といいますが、タモロコやドジョウは恒久的水域と一時的水域の間を移動して産卵しているの

です。

田んぼは一年の間の数ヶ月間、人工的に陸地が水域に変化する場所で、代表的な一時的

セミの大合唱はじまる 日の光をいっぱいに浴びて

自然界の旬

(19) キャンプ場は花ざかり



竹パウダーリング（上）、ノンパウダーリング（下）

写真のように、パウダーリングもノンパウダーリングも同じように育っています。

ノンパウダーリングがパウダーの方へ根を伸ばしているのではないかといふ噂がちらほら。

吹いてくるような気がします。真夏の暑さが厳しいほど、朝夕の涼しさが身にします。感謝せずにいるられない気になります。こんな体験のない生活は、感性も自然環境順応力も退化してしまうと思いませんか。

（NPO法人七塚原自然体験
理事長 西村清巳）

二十日以降は気温がどんどん上昇して、早朝からセミが絶好調です。夕方から幼虫が木登りをはじめ、二十一時頃から羽化が始まります。あちらでもこちらでも子どもたちの歓声が上がり、興奮状態でセミ観察が始まります。厳寒な羽化の儀式を懐中電灯に照らされてセミ君は迷惑です。その仕返しがどうか、朝からじわじわと気温が上がるつ

る。それでもこちらでも子どもたちの歓声が上がり、興奮状態でセミ観察が始まります。厳寒な羽化の儀式を懐中電灯に照らされてセミ君は迷惑です。その仕返しがどうか、朝からじわじわと気温が上がるつ

生物調査事業

さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るために生物調査事業を行っています。

地域の自然を知る

陸上生物・水生生物・海域生物調査



大切な生き物を守る

野生動植物保全対策調査



失われた自然を取り戻す

自然再生計画立案・実施



実施の枠組み

住民や行政・事業者の自然との共生の取組みを生物保全の専門家としてお手伝いします。

（財）広島県環境保健協会

問い合わせ :

財団法人広島県環境保健協会

環境生活センター 環境保全課

電話 : 082-293-1580 (休日) FAX : 082-293-5049